

KEM News Letter 15号

2024年度 第22回関東歯内療法学会大会が行われました

KEM第22回学会大会が開催され得ました
テーマ：レジェンドに学ぶーエンド長期症例

2024年1月28日（日）9:30～16:00

場所：日本大学歯学部本館7階
創設百周年記念講堂

大会長：武市 収教授（日本大学）
実行委員長：岸本 英之先生（東京都開業）
講演：五十嵐 勝教授（日本歯科大学）
井澤 常泰先生（東京都開業）

小嶋 壽先生（東京都開業） 講演順

受賞講演 藤野拓郎先生（神奈川県開業）

一般講演：①宮下 裕司先生（東京都開業）②加藤 邑佳先生（明海大学）③山口博康先生（鶴見大学）④牧 圭一郎先生（東京医科歯科大学）⑤大野 慶先生（日本歯科大学）

投票により牧 圭一郎先生が鈴木賢策賞に選ばれました。

ビアパーティー



神奈川県開業 浅川 和也

冬晴、睦月の最終日曜日、日本大学歯学部にて上記学会大会が行われました。

テーマはレジェンドに学ぶーエンド長期症例として日本歯科大学生命歯学部 五十嵐勝教授、東京都開業の井澤常泰先生、東京都開業の小嶋壽先生のご三方の講演を聴講させて頂きま



した。午後は一般口演、受賞講演、そしてビアパーティーが行われました。

それぞれの先生方講演について私なりの所感を述べさせていただきます。

最初は五十嵐教授の講演でした。内容の中で特に興味深かったのが、歯内療法専門医であ

ればこそ長期的症例観察の中においてもVPT、歯髄保護を優先していくべきであるとあらためて考察する機会となりました。ほか歯牙口腔外接着後の再植症例なども興味深く拝聴させていただきました。

次は井澤先生の講演でEndodontic microsurgeryとしてのマテリアル&スキルの変遷について拝聴させていただきました。術前の難治性症例の予測と長期的予後の観点が非常に参考とさせていただくお話でした。

また逆根管充填におけるの器具、材料、術式についても参考になるものでした。

3人目は小嶋先生でしたが、長期症例の中で歯科臨床において見えないものは見えない、だから見えるように行い、歯内療法に陥った多元的な原因の考察が必須であり、それを踏まえた包括的な歯科臨床が長期的予後の安定につながる事を再認識する事が出来ました。

どのレジェンドの先生方におかれても、常に臨床に正直に向き合い、患者様のために長年において歯科臨床にあたってこられてる事が名実一体である内容で、私にとっても貴重な経験となりました。

午後の一般口演は5演者の先生方のご口演でした。その中で東京医科歯科大学の牧圭一郎先生が「3根管を有する下顎第一小白歯に対する逆根管治療」が鈴木賢策賞を受賞されたのをはじめとして各先生方の口演も、これからの歯内療法における進歩的なものが多く大変興味深いものばかりでした。

また、個人的には東京都開業の宮下 裕志先生の「関東地区における根管治療の現状を横断的に調査した研究人単位での報告」においては、これを機にKEM学会やJEA 学会の協

力のもとmeta-analysisな研究に発展していけるよう祈念しております。

アンケートより抜粋（回答103枚）

Q今回のサマーセミナーに参加されていかがでしたか？（満足77.7%、普通21.4%、不十分0.9%）

外科処置の予後が聞けたこと、

長期観察について勉強になった

外科療法の長期予後は非常に興味深かった

Q今回のセミナーの内容は、今後の診療に役に立ちますか？（満足78.6%、普通21.4%）

日々の診療に活かすことのできる方法や考え方があった

ケースを追っていくことが大事とわかりました

Q今回よく理解できた事は何でしたか。

逆根管充填

外科的歯内療法の長期予後のエビデンス

歯根端切除は観察が大切だということ

Q今回はリアル開催でしたが、大会、セミナーの開催法についてご意見をお聞かせください。

リアル開催が良い 48.5%

ハイブリッド（リアル開催とウェビナーの同時開催）が良い 49.5%

2024年度サマーセミナーおよびハンズオンセミナーについて

日時：2024年8月29日（木）17:00~

場所：日本大学歯学部本館7階

創設百周年記念講堂

テーマ：歯内治療のトラブルの法的対応と対策(仮)

定員：200名

講師：小畑 真先生（弁護士）

ハンズオンセミナー

講師：岡口 守雄先生（東京都開業）他

詳細は、関東歯内療法学会HPにて